

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070300569		
法人名	株式会社 メデカ ジャパン		
事業所名	メデカジャパン株式会社 桐生ケアセンター グループホームそよ風		
所在地	群馬県桐生市相生町1丁目160-1		
自己評価作成日	平成23年 1月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成23年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来る事は自分でやって頂くよう心掛けています。下肢筋力を維持する為に、体操、レクの前にウォーキングを行ったり、歩行出来ない方には立位保持運動を実施しています。
1階デイルームに来る慰問に参加したり、外食レクは希望の食事を食べに行ったりと出来る限りの個別対応する事も行っています。季節を感じられるよう外出レクにも出かけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大切なことは、その人らしい生活に寄り添う、明るく、楽しく、笑顔に感謝、住み慣れた地域の自然や人々とのふれあい、を目標に掲げている。職員のレクリエーションを充実したいと言う提案により、それまでの午前・午後を通じての入浴時間を午後に行うことで、午前中のレクリエーション活動がより活発になるなど職員の意見を活かした取り組みをしている。また、レクリエーションを2ユニット合同で行い顔見知りの関係を築いているので、ユニット間の入浴介助もスムーズである。できることは自分でやらせてもらうことを基本に、とくに立位保持(立ち座り)に力を入れ、少しでもおむつから離れることができるよう支援するなど職員のさまざまな積極的な関わりがあり、ホーム全体に活気が感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念である「そよ風憲章」と「私たちの大事にしたい事」がある	法人の理念の他に、地域密着型サービスになったときに、職員で話し合って決めた理念がある。また、毎年、ホームの目標を掲げている。2ユニット合同の会議があり、日々のケアが理念からはずれていないかを話し合っている。管理者やリーダーは、職員指導の時に理念や目標を示して指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週2回買い物の日として近くの商店に買い物に行く。「外食レク」では飲食店に出かけたり、お弁当にもらって施設内で楽しんでいる。毎年桐生祭りや近くの神社の宵祭りに参加し、席を用意して頂いている。	地域のお祭りや行事に、積極的に参加している。また、地域のレストランで外食したり、買い物をしている。保育園や学校の慰問・ボランティアの訪問時には、デイサービスの利用者と一緒に楽しんだり、ホームの行事の時には、両隣の方に声をかけている。	区長や民生委員の協力を得て、地域の方々との関わりを増やし、地域の理解を深められることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会、家族会で伝えている。地域包括センター、市役所と合同事業である家族交流会を開催し地域の人々にも気軽に来所して頂ける機会を作った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告や行事計画(報告)を行い、質問や意見を求めてサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、4月6月9月1月に行い、次回は3月に実施予定である。その時々により民生委員、消防団員、市職員、家族代表、入居者、職員の参加で、火災発生時について・外出先について等の意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、家族会に出席して頂き、常に協力を得ている。	桐生市の「家族交流会」モデル事業に指定され、1月にホームで「家族交流会」を実施している。3月には、デイサービスの家族にも参加を呼びかけ、公民館で第2回を実施する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	エレベーターホールの階段のみ危険な為施錠させて頂いている。拘束についての研修に出席している。	ホームが2階にあることから、家族の了解のもと、エレベーターと階段前のドアを施錠している。また、夜間体動が多くベッドから転落する危険のある人に対し、家族と相談して夜間のみベッド柵を使用している。職員は権利擁護及び身体拘束禁止の研修に参加し、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に出席し、勉強会を行い全職員に周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、会議で制度について学んでいる。現在1名の方が利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、入居希望のご家族の相談や質問、訴えに対してわかりやすく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿の記入のテーブルに意見箱を設置している。重要事項説明書にも苦情処理担当者名や、市、国保連の苦情窓口の電話番号が記載されている。	意見箱をホーム入り口前に常設し、意見箱の横に苦情窓口のパンフレットを置いている。その他、家族の訪問時に直接意見を聞いたり、家族交流会の後にアンケートを実施している。アンケート内容は、食事に対する希望や介護の仕方・方法について教えて欲しいとの意見などであり、対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議、全体会議を毎月開催し、そよ風の他の事業所と一緒にセクション会議に参加し、意見や提案を聞き話し合っている。	月1回のグループホーム会議及びユニット会議があり、意見交換を行っている。その他、月2回ケースカンファレンスを持ち、職員の意見を聞いている。職員から、午前のレクリエーション充実のため、午後の入浴実施の提案があり、取り組んでいる。また、離職しないためにはどうしたらよいか、ターミナルケアについて今できること・できないことは何かなどを話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員、契約社員、パート社員にかかわらず、全職員が年2回の査定制度がある。現在パート社員も契約社員に、契約社員も正社員に上がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量に合わせ、積極的に研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修に参加したり、他各種研修にも参加し、同業者と接し交流を計っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や担当ケアマネージャーからの相談は勿論、訪問面接時に求めている事、不安な事を聞きだせるよう努めいつでも相談できる事を伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や訪問面接時にお話を傾聴し、困っている事、不安な事を解消できるよう努力している。 いつでも相談できる事も伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居希望であってもお話しを聞いた上で、本人と家族にとってより良いサービスを利用して頂くため、他のサービスを勧める場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすという事を重視し、入居者様との会話を大切にしながら食器洗い、レク等一緒に楽しみながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は勿論、月1回近況報告書を記入しそよ風だよりと一緒に送付して本人を支える環境を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に限らず知人、友人、親戚の方などの面会を歓迎している。 家族の協力の下、冠婚葬祭に参加される方もいる。	家族や友人の訪問は自由であり、外出・外泊も自由である。馴染みのパーマ屋の利用や行きつけの医院の受診、お墓参り、親戚の家への訪問、昔住んでいたところの近隣の人に会いに行く等、家族と話しながら対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考慮し座席を変え楽しく過ごせるようにしている。 難聴の方等は職員が会話の橋渡しをする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネージャー、ソーシャルワーカー、相談員に情報提供をしている。 家族にはいつでも相談して下さいと言葉を添えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動から本人の求めを感じ、希望に合ったケアを心がけ、カンファレンス時に検討している。	入居者一人ひとりの状況をアセスメントし、入居者の状態にあった対応をしている。繰り返し話を聞いたり、帰宅願望のある入居者や夜間寝ない入居者には寄り添って話をする等、カンファレンスで成功例など話し合っており、職員は同じように対応している。1ヶ月の報告書は請求書と一緒に送り、状態や暮らしぶり等を知らせている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人の情報を入居前より職員に開示しスムーズに馴染んで頂ける様にしている。 入居後わかった事も随時記入し共有し、サービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日のスケジュールの中で個人のペースやわずかな心身状態の変化を把握した対応に心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望、医師との連携を図り職員が気づいた事、成功例を共有しケアプランに反映させるようにしている。	入居して1ヶ月以内に、ケアプラン作成をしている。日々の観察はかかさず、入居者がその人らしく暮せるように、本人や家族から希望を聞いてケアプランに反映させている。また、カンファレンスで話し合い、状況に即したプランとしている。退院した後は状態変化があることが多く、1ヶ月以内にケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録様式が変更になり、1日の流れを記録でき、バイトルは1週間分が一目で把握できるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅からデイサービス、又はグループホーム等センター内に限らず本人の心身状態を第一に考え対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会への民生委員の方、消防団員の方の参加、学生や入居職望者のボランティアを受け付けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認している。当センターのかかりつけ医は週に1回の往診と必要時の受診を支援している。他の医療機関については家族対応で、体調の変化について書面や口頭で伝えている。	協力病院医師の往診が1週間に1回あり、その時に状態説明をうけている。本人や家族の希望により、入居前のかかりつけ医に家族対応で通う人もおり、情報は家族よりうけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスの看護師に相談している。必要があれば協力医の指示の下医療行為を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	近隣に協力病院があり、入院時にはセンターでの状態を用紙にまとめたり職員が説明している。入院中は見舞いに行き病状や今後の見通しなどを確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状、状態を踏まえ起こりえる危険等を医師に確認したり、ご家族を交え出来る事、出来ない事を説明し相談している。	ホームでは現在ターミナルケアは行っておらず、家族にも説明している。基本的には、医療行為が必要になった場合、水を飲まない・食事の食べ方が少なくなってきた場合等の利用者の状態がそのように予測ができるような時には、家族と医師、ホームで話し合っ対応を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、救急救命についての勉強会をしたり、事故対応マニュアルに沿って行動している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い消防署の方の立会い、指導も受けている。	年2回の避難訓練の実施、年1回の救命救急の講習などを行っている。訓練では、消火器の確認、通報の仕方、消火器の使い方の体験もしている。スプリンクラー・緊急ボタン装置の設置、災害時のマニュアルがあり、誘導係・連絡係等の分担を決めている。また、系列グループホームや施設からの応援体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の性格に配慮した言葉使いや対応を心掛けている。 個人情報や不要なものはシュレッダーにかいたり、持ち出し禁止とし、徹底している。	ホームには、プライバシー保護のための基本指針がある。排泄介助や入浴介助ばかりではなく、日々の介助においてもプライバシーを尊重した対応を行っている。呼称についても、入居時に家族に聞いて決めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解力に応じて口頭やジェスチャーを交えコミュニケーションをとりながら、表現や自己決定できるよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中でも本人のペースを大切にし、出来る限りの自由な生活を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は本人の好みで選んで頂いたり、職員と一緒に選んだりしている。 ヘアースタイルは美容師さんに好みの長さ等を話しカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事をする中で好き嫌いを把握したり、セレクトメニューを選んでもらったりしている。テーブル拭き、食器の片付けも手伝ってもらっている。	毎日のセレクトメニュー(和食、洋食)により、楽しめるよう支援している。食事は、素材が同じでも煮付けたり、フライにしたり、希望を聞いて提供している。水分・食事摂取量を把握し、きざみ・ペーストにも対応している。食事は厨房で準備しているが、おやつは利用者と一緒に作って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のたてた献立の為バランスは良く、個々の病状も考慮している。 摂取量は常にチェックし記録に残して、月1回は体重測定を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全入居者様が声掛けや介助で口腔ケアを行っている。 夕食後は入れ歯を洗浄剤に漬けて預かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位の取れる方はリハビリパンツを使用しトイレ誘導を行っている。 誘導時間と個々のペースに合わせ、随時排泄介助を行っている。	立ち座りさえできれば、トイレで排泄できるという共通理解のもと、立位訓練により、オムツはずしの実践に取り組んでいる。また、入居者の様子を観察してリハパンに換えたり、夜間のみおむつを使用するなどの取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、乳製品、食物繊維を摂って頂いたり、ウォーキングや体操もやって頂いている。歩行困難の方は立位保持運動を行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜以外毎日入浴日があり、入浴剤を使用したりして保湿や気分を変えて入って頂いている。	ユニットごとに週3回の入浴日を設けている。入浴日でないときは、足湯を行っている。希望がある場合や尿・便失禁、夏場の汗等で汚れた場合には、随時シャワーや入浴により身体の清潔を図っている。入浴剤や菖蒲、ゆず、ばら、あじさい等を浮かべ香りを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調に合わせた午睡や、就寝時間も決めず本人の希望に合わせて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに服薬情報を記載してある。服薬管理は職員が行い、服薬時には飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人に適した役割(モップ掛け、手すり拭き等)をお願いしたり、レクリエーションなどで楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	全体の行事としての外出や、希望により可能な限り買い物、散歩、日舞見学、地域の祭りなど外出の機会を増やしている。	天気の良い日には、ホーム前の駐車場に出て日光浴や散歩を行なっている。また、外食や買い物、お花見などの機会に外出している。入居者の希望を聞いての日常的な外出支援は行っていない。	日常的な外出の機会を増やせるような工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方はご家族の承諾を得て小額の現金を持っている。買い物に行ったときは職員の支援の下支払いをして頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話についてはご家族の承諾の下、本人のかけたい時にかけて頂いている。 手紙については希望の方にやり取りして頂き、読めない方には職員が呼んでさしあげている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	障子を使用している為日差しが強い時も軟らかい明るさが確保出来ている。 テレビの音は入居者様に確認しながら調節している。 季節に合った装飾にも気を使っている。	居間は家庭的に設えており、それぞれ自由に過ごしている。季節にあった飾り付けまた入居者の作品・写真も貼っている。トイレは車いす用もあり、広く清潔である。季節によりベランダで野菜作りを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、エレベーターホールにソファが置いてあり、気の合った方同士で会話したりしている。ユニット間は自由に行き来できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具などを持ち込んで頂いたり、家族の写真等も飾っている。	持ってくるものに制限はなく、居室は利用者と家族で自由に設えている。家族の写真・コタツを備えてる人、携帯電話・テレビを備えてる人もいる。空調は、職員がその人に合った調整をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には本人の名前と顔写真、トイレには大きく【トイレ】と表示してある。 個々によってはダンスの中に入れる物を表示してある。		